

学長のコラム

大学のブランディングについて

昨年不採択であった文科省の補助金制度「私立大学研究ブランディング事業」に「地域包括連携医療教育研究センター」を中心に再度応募していただいた。昨年度からの主な変更点は、ブランディング戦略に係る「調査票」の項目と「審査の観点」が拡充されたことで、そのため、いろいろ勉強することになった。

ブランドとは、元々、牧場の所有者が自分の家畜などに焼印を施し、他者の家畜と区別するために行われた行為を表す北欧の言葉に由来しているそうだが、大辞林によれば、自己の商品を他の商品と区別するための、自己の商品に使用する名称や標章、銘柄、商標、あるいは、特に優れた品質を持つとして知られている商品の名称や標章とある。企業の場合は、ブランド自体に付加価値が認められるようになれば、「評判の良いブランド」として、新規購入の消費者を取り込むことや、ブランド価値による価格の上乗せをして利益率をアップさせることができる。また、ブランディングの確立によって、商品に対する価値と共に共感や信頼などが得られるため、差別化ができた顧客を獲得することができる。本学の場合は、ブランドは、「熊本保健科学大学」および、そこから輩出される「社会に貢献できる医療技術者」であろう。高校生、進路指導の先生、保護者、地域住民、学生の就職先などのステークホルダーに対して、本学が輩出する卒業生が付加価値を持つ優れた人材であると認識させ、満足させ、最高の評価を築くことがブランディングである。高級ブランドのデザインや肌触り、機能性、丈夫さなどから発想して、本学の卒業生を「評判の良いブランド」にする（付加価値をつける）「要素」という概念をひねり出したのであるが、その要素としては、次のものが考えられる。全国トップレベルの国家試験合格率、開学以来続く就職率 100%、最新の設備をそろえた教育環境と将来を見据えた実践的な授業、低い学費ながら質の高い教育

（以上、入試広報における 4 つのチカラ、魅力）、に加えて、生涯にわたって学修を継続する力と研究力、社会で通用する人間（基礎）力、国際力、コミュニケーション力、考えを表現し伝える力、地域の施設や在宅でも活躍できる力、ボランティアや社会活動をする意欲と力、などである。これらの「要素」を学生諸君に付加することができるように教育改革を進めたいので、全構成員の理解とご尽力を期待したい。

申請書には、「ブランディング戦略」とは、「将来ビジョン」の実現に向けて、自大学の強みを明確にし、他大学等との差別化を図るための戦略を指すとある。これを機に、本学では今まであまり意識されなかった、「ブランディング戦略」や「将来ビジョン」を明確に打ち出す必要性を感じているので、皆様の知恵とご意見を頂きたい。



6月・7月・8月の主な行事予定

6/30(金)	進路指導者向け進学説明会
7/1(土)	脳卒中リハビリテーション看護分野入学試験 大邱保健大学交換研修生受入 7/1~7/14
7/2(日)	進学ガイダンスセミナー2017 (大学コンソーシアム熊本) *本学にて開催
7/7(金)	学術講演会「医療から減災を考える～一人でも多くの命を救うために～」16:20~17:50 50周年記念館にて
7/10(月)	国際シンポジウム 7/10~7/11
7/23(日)	第1回オープンキャンパス
7/31(月)	前期定期試験(予備日含む) 7/31~8/8
8/7(月)	学術講演会「脳回路から脳機能を眺める」15:00~17:00 50周年記念館にて
8/9(水)	H29.4.2(日)入学式(出勤日)の振替休日
8/10(木)	職員夏期休暇(8/10~8/17)
8/20(日)	第2回オープンキャンパス
8/24(木)	第1回FDセミナー「三つのポリシー(DP・CP・AP)を踏まえた教育の質保証の在り方について」13:00~
8/27(日)	チャレンジ熊大! 推薦入試対策講座

平成 29 年度 第 1 回 新任教員によるお披露目講演会

5月12日(金)に、「新任教員によるお披露目講演会」を開催し、4月に着任された講師以上の8名の先生方に、それぞれ自己紹介を含めた教育や研究についてご講演いただきました。

また今回は、医学検査学科の安楽准教授にも米国からの帰国報告を併せていただきました。年度途中に着任される先生方のお披露目講演会も冬頃に開催予定です。(文責：人事課)



職場内研修

事務部門において、今年度から初めて本格的に新入職員の職場内研修を実施しています。月2回のペースで管理職等が研修を担当しており、これまでに6回実施しました。この研修は9月まで続き、8月には崎元理事長・学長の講話も予定されています。なお、本研修には希望する職員等も参加しており、毎回活発な意見交換等が行われています。

(文責：河瀬 晴夫事務局長)



地域包括連携医療教育研究センターキックオフシンポジウム

テーマ「地域で暮らす 地域でみまもる 地域で看取る」

5月28日(日)本学50周年記念館に於いて、地域包括連携医療教育研究センターキックオフシンポジウムを開催しました。日曜日にも関わらず、多くの方々にご参加いただき大盛況でした。

- ①基調講演「地域包括ケアシステムにおける地域の医療系大学の果たす役割」講師:山城 清二氏(富山大学附属病院 教授 総合診療部部长)
 - ②本学と合志市・熊本市との連携協力に関する覚書締結の報告
大西一史熊本市長様・荒木義行合志市長様にご参加いただきました。
 - ③パネルディスカッション
- ※詳細は、ぎんきょう36号で特集致します。(文責:企画課)

①



①



②



③



立柱式(りっちゅうしき)

5月9日(火)に、新アリーナ建築現場にて、「立柱式」を執り行い、安全を祈念しました。



*立柱式とは、建築工事期間中に行う最初の柱を立てる儀式
クレーンの左横の黒い柱が、最初に立てられました。(5/9撮影)

文責:企画課



新アリーナ工事状況(本学2号館5階から6/1撮影)



*

コンケン大学交換研修生

6月1日(木)~14日(水)まで、コンケン大学看護学部の交換研修生4名が本学に滞在しました。滞在期間中は、済生会熊本病院、デイサービスぼぼろ、われもこう等の施設見学の他、講義受講、日本語研修、文化体験、天草及び市内観光等をしていただき、本学の学生とも充実した交流が図られました。

(文責:国際交流委員会)



学友会役員研修会

昨年は震災の影響で、学内での開催となった学友会役員研修会ですが、2年振りに国立阿蘇青少年交流の家に於いて、6月3日(土)~4日(日)の1泊2日で開催しました。今年は80名の新役員が参加しました。学友会会則をもとに年間の活動説明や杏祭についてのテーマや担当割の話合い等が行われ、また夜の懇親会ではグループ対抗ゲーム大会でとても盛り上がり、全員の親睦が深まった良い研修会となりました。(文責:学務課)



私の秘話ヒストリー

今回は看護学科の高島利講師に投稿していただきました。

昨年4月に着任しました。偶然にも直属の上司の教授は、私が17年前に大学生だった時の教員でした。教授は、当時の私を覚えていました。その理由は、私がいた看護学科は、学生60名中男性は1名で身長が高かったこともあり、講義では教員からはほぼ100%指名されました。しかも、質問に意地で答えるため、4年間指名され続け、講義・演習中眠る暇もありませんでした。本学に着任後、教授から「本学の男子学生を何気なく見ていたら、17年前の高島先生を思い出した。ちょうどその時、高島先生が本学に応募してきたので大変驚いた」という話を聞きました。当然、教授とは連絡等もとっておりませんでした。

これまで世の中は広いと思っていましたが、今回、何の縁もない熊本に来て、世の中は意外と狭く、しかも学科以外の色々な方々ともいい縁に恵まれたと思います。新たにできる縁、切れる縁ありますが、一つ一つの縁を大事にしていきたいと3号館3階の窓から、西里の空を見ながらふと思う今日この頃です。